



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

望まれない子供たち

妊娠してしまったもののその子供の誕生は望まれていない……いくら後悔しても後の祭である。ではどんな解決の道が考えられるのだろうか。効率的な手段として、法律で正当化された中絶をあげる人がいる。この法律で正当化された中絶が生み出す状況もはや子供自身には何の権利もない。その子の誕生が望まれているかいないか、出産するかしないかは大人の勝手、その子の誕生を、道徳上、義務上、望む状況になつてしまった。母親の子宮の中で芽生えた赤ん坊達その運命は二つに分かれている。望まれてこの世に生まれてくるか、あるいは中絶によつてその生命を絶たれるか。無計画な性交、不備の避妊の結果できてしまった子供を選択的に中絶するそこから生まれるもの、それはどろどろとした不健全な社会だけだ。

赤ん坊が生まれる前に、その子が生まれてくると都合が悪いとか、その子の生まれる価値はないとか、大人が勝手に判断して中絶して殺してしまうのではなく、赤ん坊は皆その生命が芽生えた地点でその誕生が望まれるべきなのである。計画的に出産された赤ん坊、頭のいい健康

的な赤ん坊、裕福な家に生まれた赤ん坊、あるいは男の子の赤ん坊、赤ん坊の誕生はいつも喜ばしく、望まれているのはこのような赤ん坊だけではない。そんなわけ隔てや偏見なくすべての赤ん坊を歓迎し、生まれる前はもちろん後もずっと愛情と気配りを持つて暖かく育んでいく私たちは協力し合つてそんな社会を築いていく必要がある。

ではない。それは自分を犠牲にしてまでも子供に無条件の愛を捧げることから始まる。日本を、赤ん坊の誕生をいつも例外なく望むような社会にしていくのはそんな姿勢だろうか。殺すことではなく愛情をふりそそぐ姿勢。それが最良の道であり、結局それが望まれない赤ん坊たちに対する唯一の対応策ではないだろうか。

この問題は簡単に単純な答が出せるものではなく、難しいかも知れないが現実的に考えて又長い目で見ればこう言えるだろう。中絶がもたらすもの、それは後退だけだ。誕生が望まれていない子供たちにどう対処していくか。その答は必要に応じた中絶など

ノボト二一

胎児に平和はない

人間の発達は未解明の神秘です。次のことを考えてみて下さい。

受胎 遺伝的に完全な人間が誕生します。大人になったときの形質の全てが、もう決定されています。

18日後 心臓が鼓動を始めます。

3週間後 目の始まり、脊髄、神経系、肺、胃腸ができます。

6週間後 骨格が完成します。反射神経が始まり、顔だちが見えてきます。

7週間後 手足の指と耳ができます。

8週間後 赤ちゃんは、痛みを感じるようになります。体の全系統ができあがり、親指を吸い、寝たり起きたりします。

11週間後 体の全系統が機能しています。

12週間後 つめができます。針で突くと、痛みを感じて縮みます。声帯ができます。

16週間後 まつ毛と眉毛ができます。手を握ることができません。

17週間後 生殖器がはつきりと分化してきます。泳いだり、蹴ったり、宙返りをしたりします。

20週間後 子宮の外でも生きることが可能になります。

40週間後 赤ちゃんが生まれます。

命は受胎から自然死までの、連続した成長です。

中絶について深く考えて下さい。中絶によって妊娠に終止符を打つ時、生まれてこない赤ちゃんの命は、永遠に戻りません。そして、お母さんに肉体的、精神的な問題が生じることがあります。中絶直後には、出血したり、子宮に穴があいたり、感染症にかかったりします。長期的には、その後の妊娠に問題が現れることがあります。流産の可能性が、顕著に高くなります。子宮外妊娠、不妊症、妊娠または分娩中の胎児死亡、早産も増えます。(早産は幼児死亡の第一原因であり、知恵遅れや盲目を起こす原因でもあります。)(中絶後の女性はまた、罪悪感、不安、憂うつ状態の時期を経験します。そして、これらの感情は、たとえ何年後であっても、子供を産むときに強烈に蘇ってきたりします。

どの様な過程で中絶が行われるのか、そして、それがどのような影響をあなたに与えるのかということを知って下さい。中絶は大変な医学的処置です。そして、それは、人間の生きるという自然な流れに逆らうものなのです。決定は重大問題です。でも一人で戦わなくていいのです。予期せず妊娠した場合、最初の数週間というもの、戸惑ってしまいがちです。それも、たったひとり。幸いなことに、どうしようもないように見える問題でも、それを乗り越えるために、手を差し出してくれる人たちが大勢います。

わたしたちは、あなたのことを考えています。あなたが今、人生で最大の危機に直面している、ということとを分かっています。中絶は後戻りできません。中絶するかしないかという決定は、あなたの一生に影響を与えます。真実を知って下さい。他に方法があることを知って下さい。わたしたちは、いつでもあなたの力になります。問題が何であれ、わたしたちは力になれる方法を探します。覚えていて下さい。電話一本の距離にわたしたちがいることを。

[GNFL-89]

全ての生命には価値がある

私の十代の娘が亡くなりました。これはどの父親も経験してはならない事です。しかしこの事は、プロ・ライフ・ムーブメントにとつて意味があります。

私の娘は生まれつきの脳性麻痺と知恵遅れを伴う重度の身体障害者で、歩くことも、話すことも、這うことすらもできませんでした。医師たちは彼女は5歳まで生きないだろうと言いました。

でも娘が死んだ時、彼女は17歳になっていました。娘が生まれるまで、私は必要があれば中絶は行われるべきだと思っていました。もし娘があのような状態で生まれてくると前もって分かっていたなら、恐らく中絶しただろうと思います。でも今はそうしなくて良かったと感謝し

ています。辛い事もたくさんありましたけれど、娘の短い人生が終わった今、彼女の周りにいた人間は皆、彼女を知ることによって変えられ、成長しました。

娘が私に教えてくれた最も大切なことは、無償の愛情を捧げること、障害者を個人として受け入れるにはどうしたらよいか、そして子供たちがする素晴らしい行動の一つ一つを当然のものとしてあしら

われない事です。私は先に彼女の父親であつたので、彼女の3人の弟にはより一層よい父親になれました。彼女は、安楽死や中絶によつて「無益な生命」として排除され得る種類の人間でした。しかし彼女の葬儀では、彼女の教師や治療医達が涙を流して抱き合い、祖父母は悲しみに打ち

ひしがれて出席することすらできない状態でした。彼女は関わった全ての人々に深い印象を与えた少女でした。そしてこの事は、無益な生命を防ぐために中絶された全ての障害児にも起こり得た事なのです。全ての生命には価値があり、私たちはそれを価値がないと決める権利などないのです。

ISSUES 90

「束の間の満足？」

私達人間は、この瞬間に満足を得られる事を望んでいる。あるサービスに対して支払をすればそのサービスが自分に返ってくる事を期待する。これはガソリン・スタンドやスーパーマーケット等では当然の事と言える。しかし物

として扱えない物、友情や愛情、セックス、心の平和、忍耐、他人のために自分を犠牲にする勇氣、道徳など、無形でもっと高等な現実」等はどつてである。

私達はときどき物を扱うのと同じように人間を扱ってしまう事がある。自分の妻あるいは夫に不満を抱くようになればすぐに離婚して次のパートナーを見つけたら、子供が胎児のうちに障害を持つ子だと判明すればその子を中絶し、欠陥のない申し分のない子供を欲する。友

達関係においても、気疲れが多くなってくればもつと楽につき合える人を求めるようになる。

人間を動物やペットのように扱って、自分達の満足のためだけに利用するような事があつていい物だろうか。子供が親の物であるという事は、ペットが飼い主に所有されているのとは違つ。子供は、神の前には私達と同等に貴重なのである。姿は小さくても決して私達より劣るといふ訳ではない。

私達は皆人間としての尊厳を同等に持つており、友情、恋、愛情、真実、美、徳を必要とする基本的なニーズも同じように持ち合わせている。感情や情熱を持ち、長所・短所があり、苦痛や傷を負い、善悪の両面を持つている。皆幸せを望んでいるのだが、それが

常に正しい求め方とは限らないのが問題なのである。

今日、私達にとって、最も美德とされるのは性欲をコントロールする貞節の美德ではないだろうか。性欲が空気や食べ物、飲物と同じように人間の生活にとつて必要不可欠な物とする考えは時に危険を招く事がある。私達の生活に於いて性的快樂ばかりを追及したらどんな事になるかを考えるべきである。人間の快樂を妨げるものは何もない。まだ結婚適齢期でない若者はなかなか自分をコントロールする事が出来ないため、結婚相手とのみ持つべき性的關係を、結婚するまで持たずにいようという考え方は見受けられないようだ。でも性的關係を持つという事には常に妊娠・生命誕生の可能性がつきまとう。人間の男性は常に受精する事が出来るため、性欲に属

する事なく理性的に振舞う事を要求される。自分の激しい情熱に勝る事が出来なければ、すぐに負けた事になってしまうからである。もし私達は感情の奴隷と化してしまったら、どうして自由を要求する事が出来ようか。

性的快樂を基本とする夫婦は、それを妨げようとする何をも認めようとしていない。女性が受精可能な数日間セックスする事を控えめにしたり、他の素晴らしい方法で愛情を表現したりする代わりに、彼らは受精の可能性を拒んで避妊を選ぶのである。彼らは周期的な自制が、二人の結婚と友情を駄目にすると思われている。例えばどちらかが仕事の都合で遠くへ行ったり、入院したり、はたまた「その気」になれない時など、一体どうするつもりなのだろうか。

一度避妊しようと思ったら、それは徐々に、しか

し必然的に、究極の避妊方法としていわずに中絶を考えるようになってしまう。社会は避妊薬を使つていかに氣楽に安心してセックスできるかを説いて私達を欺いてきました。うそ、偽りの処方箋を数多く発行して、避妊薬では十分ではない事、完全に避妊したい場合は中絶するしかない事を発表した。

ここに90年代アメリカの家庭生活の事実をいくつかあげてみよう。40%の夫婦が離婚。胎児の1/3が殺されている。誕生した子供のうち産みの両親と暮らせるのは、1/3だけ。1/5の子供が本当の父親を知らずにいる。既婚で出産適齢期にある女性の30%が不妊手術を受けている。出産の25%は庶出。つまり国としての繁殖を殆どしていないのである。

神は私達を肉体を持つた性欲のある人間にお作

りになったのだから、その姿がどうあるべきかを考える必要がある。神のお考えを知る必要があるのだ。神は創造者であり、私達は神の創造物である。私達に眞実を知る心と徳を選ぶ意志を与えて下さった。私達を持つている物全ては神から与えられた物なのである。生命そのものも神から貸していただいた贈り物だ。

マシュー・

ハービガー博士

レイプの眞実

女性への暴行事件は、おぞましくも恐ろしいことです。しかし、幸運なことには、レイプによって妊娠する率は極めてまれだということなのです。これには多くの根拠があります。いくつかを挙げてみましょう。まず第一に、アメリカにはレイプの可能性のある、つまり性交するのに年齢的に可能な女性が一億人近くいます。この約半分の女性が若すぎたり、年をとりすぎて、妊娠の可能性はありません。子供を生むのに可能な年齢の女性であつても、ご承知のように精液と卵子の短い生存期間のため、女性は一ヶ月三十日のうち三日間しか受胎しません。三十分の三分の一なので五千万人の女性を十で割るとその

数は五百万人まで落ちます。次に手術又は病氣、あるいはその他の事情で出産可能な年齢にありながら不妊である女性の数を概算してみましょう。更にこれに避妊用のピルを飲んでいゝ何百万人も女性を加え、これに子供を欲しがつてゐるけれども、何かの体質的な理由から不妊である10ないし15%の女性達を加えると、もともとの数字はたいへん小さくなります。

また、次にレイプ犯の囚人集団についての二つの科学的研究を見てみますと、レイプ犯のうち膣に貫通する、もしくは射精する、つまり精子を生みつけることができるのは50%にすぎないということがわかります。これで残りの

数をまた半分にする事になります。そしてすべての男性が女性を妊娠させられるわけではないという事実を照らしあわせてみましょう。

最後にもう一つの要素があります。これは大きなものです。それは女性の体であり、それがどう反応するかです。女性がレイプを受ける時、形勢がたい心理的外傷を負います。それによって彼女のホルモンのバランスは完全に狂つてしまふ。実際に何が起るのかはわかりませんが、彼女の体のシステムがいうことをきかず、この心理的葛藤のため、妊娠する可能性が非常に低くなる事がわかつています。さて、ここアメリカでいゝたい何人の女性がレイプによつて妊娠するでしょう。おそらく、多く見積もつたとしても年に五百から六百でしょう。低い数字なら百です。間

をとつて二百から三百としてみましよう。いや、五百だとしてみましよう。そのうちの何人が中絶を申し出て、それを希望するでしょう。半分に過ぎません。ですから、今度あなたが、誰かがレイプの被害者のために中絶が必要だなどと、中絶の存続を認めることを正当化しようとしてゐる人の話しを聞くときは、彼らは二百か三百だろうと想像される数の女性のために百五十万もの無実の生命が殺されることを認めてゐるのだということをお忘れなくください。

ジョン・C・ウィルキー
医学博士

ウィルキー博士と

ウィルキー夫人

人間の性的特質と人工妊娠中絶の分野で国際的に著名な専門家であり、夫妻はこの問題について論じるに比類ない適任者である。20年以上にわたり年に50以上の都市で、ともにあるいは各自で講演を行なつてゐる。『プロライフの展望』という毎日のラジオ解説でウィルキー博士はさらに数百万人のアメリカ人に親しまれてゐる。